

日本産婦人科医会記者懇談会

産婦人科と乳がん検診 -若い女性を乳癌死から守るために-

O v e r v i e w

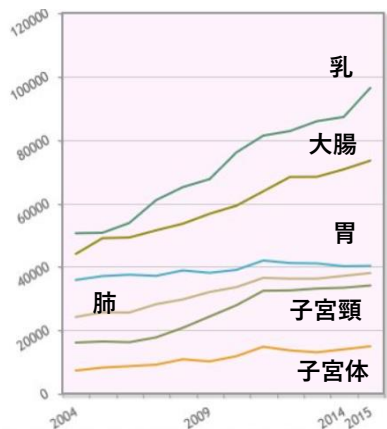
日本産婦人科医会常務理事：鈴木光明

2020年6月10日 日本産婦人科医会

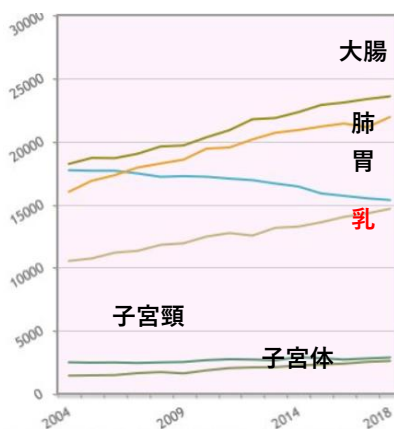
罹患数・死亡者数の増加が著しい乳がん

罹患患者数年次推移（2004～2015）

上皮内癌含む



死亡者数年次推移（2004～2018）



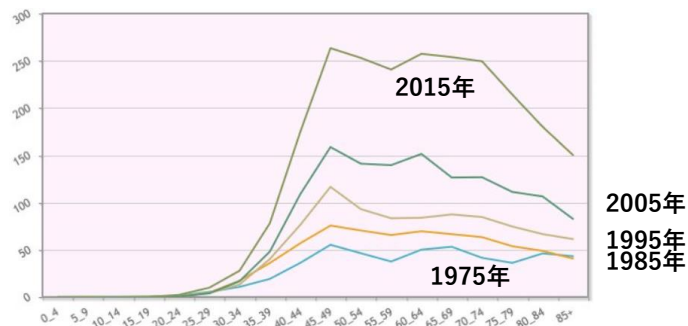
国立がんセンター（2020/3/9）

乳がん増加の原因

1. 生活スタイルが欧米化してきた
(栄養状態、肥満、高身長など)
2. 子供を産む年齢が高くなってきた。
数も少ない。
3. 若い女性の喫煙率が増えている

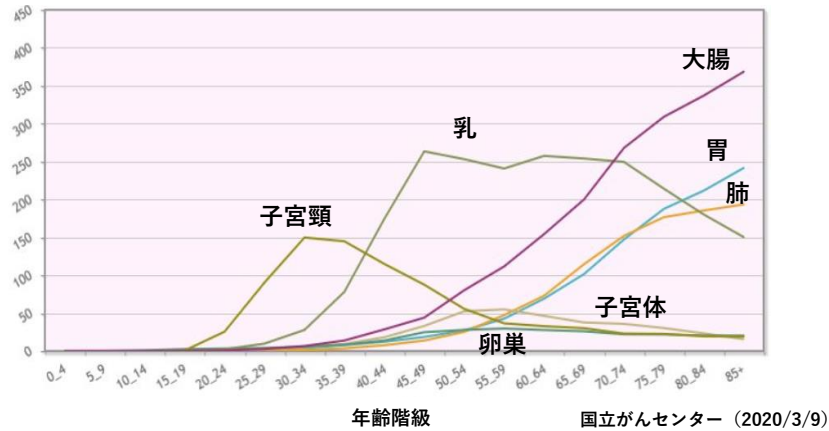
乳がんの年齢階級別、年度別罹患率の推移

年齢階級別罹患率、上皮内癌含む
(人口10万対)

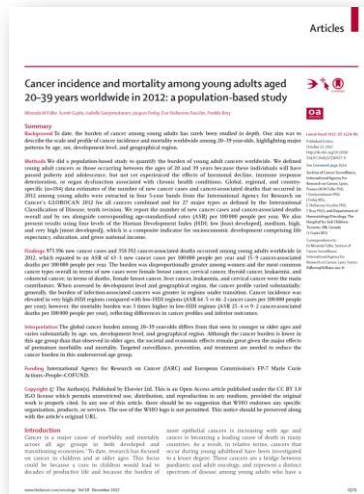


閉経後乳癌が増加し欧米型に近づいていますが、若年者など含め全年齢で罹患率が上昇しています。

悪性腫瘍の年齢階級別罹患率（上皮内癌を含む） 人口10万対：2015年



世界における若年成人がん調査 （国際がん研究機関による初の統計：2012年時点）



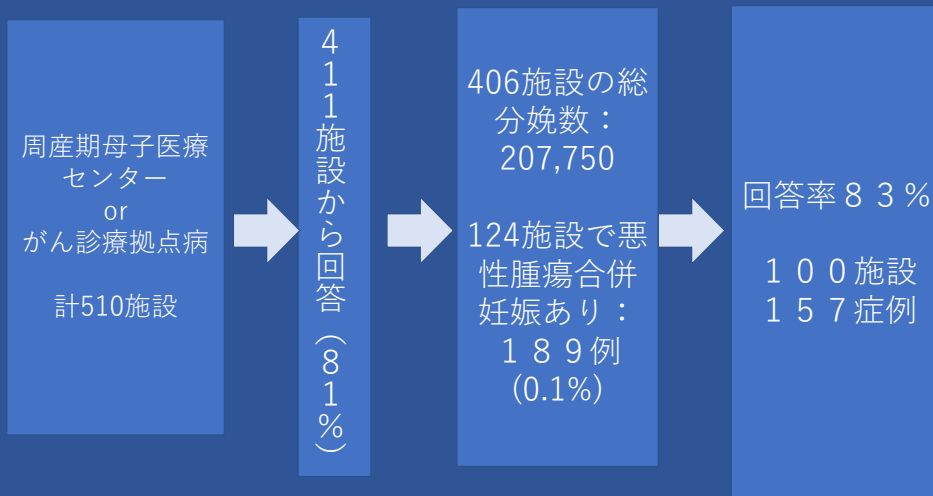
20～39歳の若年成人に多いがん



推計には、計27種類のがんについて、世界184カ国のデータを利用

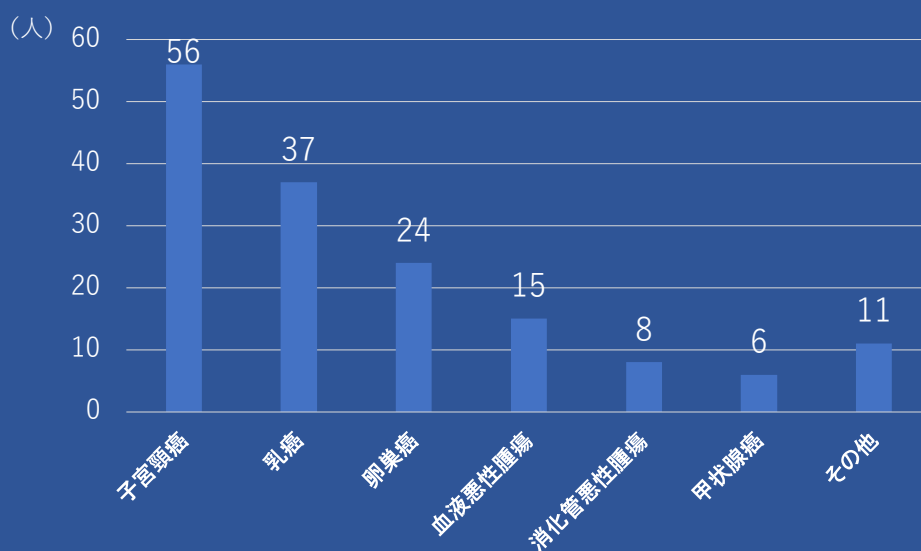
Fidler MM et al. Lancet Oncol. 2017 ;
<http://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S1470204517306770?via%3Dihub>
 産経ニュース : <http://www.sankei.com/life/news/171205/lif1712050009-n1.html> より一部改変

2014年 全国妊娠合併悪性腫瘍調査



厚生労働科学研究「わが国の妊産婦死亡原因の主疾患に関する研究」池田智明班、田畑 務

悪性腫瘍合併妊娠157例



Kobayashi Y et al. Int J Clin Oncol. 2018 <https://doi.org/10.1007/s10147-018-1352x>

妊娠関連乳癌（PABC）

特徴（age-matched non-PABCと比較して）

- ✓ 2 cm以上の腫瘍が1.5～2倍多い。
- ✓ リンパ節転移陽性例が1.5～2倍多い。
- ✓ 遠隔転移が2.5倍多い。
- ✓ ホルモンレセプター陰性例が多い。
41.9% (75 PABC) vs 21.3% (182 age-matched C) (p=0.002)

Bonnier et

al. (1997)

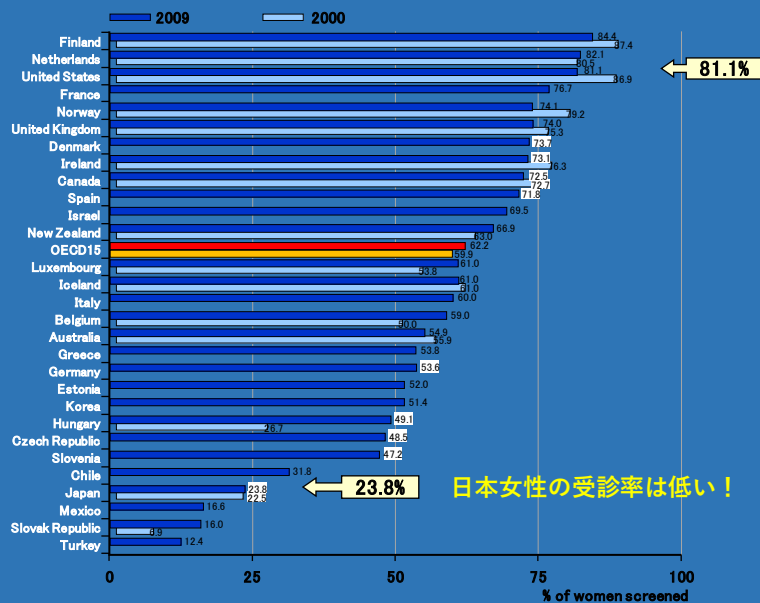
- ✓ HER-2過剰発現例が多い。

Reed et al.(2003) 44% (122例) 一般的には20～30%
Elledge et al. (1993) 58% (15例) 対照は16%

妊娠関連乳癌は予後が悪い？

- ✓ 乳房の血流量が増える
- ✓ 女性ホルモンが増加する
- ✓ 免疫機能が落ちる

マンモグラフィ検診率（50～69歳）



(OECD, Health at a Glance 2011. <http://www.oecd.org/health/health-systems/healthataglance2011.htm>より)

日本産婦人科医会の活動

1. 第4回産婦人科医のための乳がん検診参画へ向けての講習会
2019年11月3日（日）福岡
2. 第15回乳房超音波講習会の開催
2019年12月7-8日（土日）幕張
3. 第31回マンモグラフィ講習会の開催
2020年1月18-19日（土日）市ヶ谷
4. 日本産婦人科乳腺医学会・医会乳房超音波セミナーの開催
2020年3月22日 名古屋（延期になりました）
5. 乳がん検診研修コーナーをホームページにアップ



乳がん検診用マンモグラフィ読影に関する講習会 （公益社団法人 日本産婦人科医会）

令和元年度までに、31回開催

全受講者は延べ1,335名で、そのうちA-S・A評価33名、B評価505名

回数	参加者数	AS	A	B-1	B-2	C	D
23	45	1	1	14		15	14
24	42		1	12		19	10
25	46		1	18		18	9
26	45			16		21	8
27	47		4	27	2	6	8
28	46		3	22		11	10
29	45			11		24	10
30	40	1	2	20		11	6
31	39	1	1	13		14	10

産婦人科医のための乳がん検診参画に向けての講習会

- 第1回 平成26年6月8日(日) 東京 受講者 約75名
- 第2回 平成29年11月5日(日) 大阪 受講者約120名
- 第3回 平成29年11月4日(日) 岐阜 受講者 約90名
- 第4回 令和元年11月3日(日) 福岡 受講者 約90名
- 第5回 令和2年11月21日(土) 東京

遺伝性乳がん卵巣がん（HBOC）症候群

BRCA1 80歳までに乳癌になる確率 **72%**
(30歳~40歳までに急増, 対側乳癌 40%, <20年)

80歳までに卵巣癌になる確率 **44%**

BRCA2 80歳までに乳癌になる確率 **69%**
(40歳~50歳までに急増, 対側乳癌 26%, <20年)

80歳までに卵巣癌になる確率 **17%**

(Kuchenbaecker KB, et al. JAMA. 2017)

予防的乳房切除術、卵巣・卵管切除術
⇒保険適用となる（2020年4月）

若い女性を乳癌死から守るために -課題-

1. 若年女性の乳がんは予後不良例が多い

- 妊娠関連乳癌：発見が遅くなることから進行例が多い。
- 遺伝性乳癌卵巣癌症候群：若年発症。罹患リスクが高くトリプルネガティブが多い。

2. 乳がん検診の問題点

- 検診受診率が低い
- 検診に定員を設けている市区町村が多く、希望しても受けられない場合がある
- 40歳未満は検診対象になっていない
- 高濃度乳房が多く、マンモグラフィの感度が低い
- 超音波検査の普及が不十分
- マンモグラフィ読影医と乳房超音波検診実施・判定医が不足している

3. 遺伝性乳癌卵巣癌症候群への対応

- ハイリスク例の拾い上げ（家族歴などの臨床情報）→遺伝子検査
- 予防的手術（乳房・卵巣・卵管）
- サーベイランス

4. 生命予後だけでなく、結婚、妊娠、育児などのライフイベントを考慮した診療が必要